

ご支援の方法

マンスリーサポーターとして(継続的なご寄付)

毎月定額を継続的にご寄付いただくことで、AARとともに難民の方々に「支え続ける」ことができるしくみです。
お申し込みはホームページから、またはお申し込み用紙をご請求ください。



寄付をする

- クレジットカード AARのホームページより
- コンビニ払い 簡単にお手続きいただけます。
- 銀行振込 三井住友銀行 目黒支店(普)1215794 難民を助ける会
三菱UFJ銀行 目黒支店(普)4520323 難民を助ける会
みずほ銀行 目黒支店(普)11102111 難民を助ける会



銀行からのお振り込みは、ホームページの寄付画面からお申し込みください。
直接銀行にお振込みいただく場合は、こちらでお振り込み人名を特定できないため、お手数ですがお電話(03-5423-4511)でご連絡ください。

- 郵便振込 手数料無料の口座(窓口でのみ利用可)
口座番号: 00110-8-697924(加入者名: 難民を助ける会)
※自然災害以外の支援活動へのご寄付にご利用いただけます。
- ATMをご利用の場合や自然災害へのご寄付の場合
口座番号: 00100-9-600(加入者名: 難民を助ける会)

寄付額の最大約5割が戻ってきます。

AARは東京都により「認定NPO法人」に認定されており、ご支援くださる皆さまは、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けることができます。



AARの活動をお支えいただき、誠にありがとうございます。

皆さまよりお預かりしたご寄付を、確かな支援に変えて、世界の現場に届けています。

どうぞ引き続きのご支援を、AAR役職員・ボランティア一同心よりお願い申し上げます。

認定NPO法人 難民を助ける会

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル7F
TEL.03-5423-4511 FAX.03-5423-4450
www.aarjapan.gr.jp

佐賀事務所
〒840-0826 佐賀県佐賀市白山1-4-28 佐賀白山ビル303号室
TEL.0952-37-5380 FAX.0952-37-5381

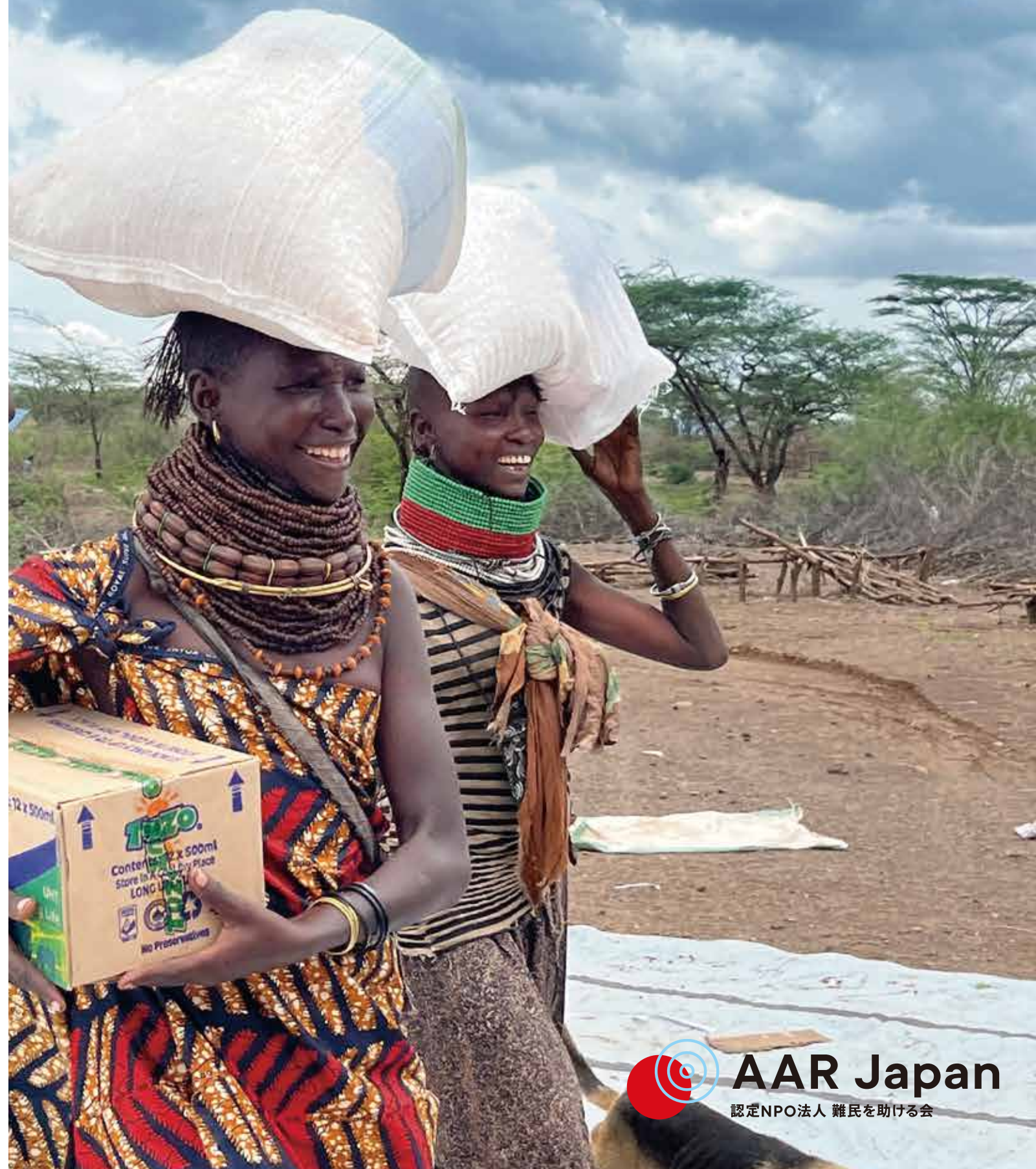
 www.twitter.com/aarjapan

 www.instagram.com/aar_japan/

 www.facebook.com/aarjapan

AAR Annual Report 2022

| 2022年度 | 年次報告書



AAR Japan

認定NPO法人 難民を助ける会

AAR Japan「難民を助ける会」は、難民支援を「原点」とする日本生まれの国際NGOです。1979年に、憲政の父・尾崎行雄の三女、相馬雪香がインドシナ難民支援を目的に創立。「困ったときはお互いさま」という日本の善意の伝統に基づいて、難民となった人々への支援を開始しました。以来、多くの個人・企業・団体の皆さまに支えられ、支援対象を拡大しながら65を超える国と地域で活動してまいりました。現在は、人道的危機にさらされた人々に必要なものを迅速に届け命をつなぐ「緊急支援」、さらに未来を切り拓くための長期的な支援を、「難民支援」「地雷・不発弾対策」「障がい者支援」「災害支援」「感染症対策／水・衛生」「提言／国際理解教育」の6つの分野に注力して16カ国で行っています。お寄せいただいたご寄付を確かな支援に変えて、直接支援の現場に届けます。



AARの支援の特徴

困難な状況にある人々の中でも、特に脆弱な立場に置かれた人を対象とし、長期的な視点をもって支援しています。また、政治・思想・宗教に偏らずに活動することを基本理念としています。

これまでのあゆみ

- 1979年 「インドシナ難民を助ける会」として発足
- 1984年 アフリカへの支援開始に伴い「難民を助ける会」に改称
- 1991年 旧ユーゴスラビアへの支援を開始（2003年まで）
- 1993年 カンボジアに障がい者支援センターを開設
- 1995年 阪神・淡路大震災の被災者支援を実施（1996年まで）
- 1996年 対人地雷廃絶キャンペーン絵本『地雷ではなく花をください』を出版
- 1997年 「対人地雷禁止条約」署名式に参加
- 1998年 国連経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格を取得
- 1999年 読売新聞国際協力賞受賞
- 2000年 特定非営利活動法人（NPO法人）格を取得
- 2001年 アフガニスタン難民支援を開始
- 2003年 国税庁より、認定NPO法人の認定を受ける
- 2008年 沖縄平和賞受賞
- 2011年 東日本大震災の被災者支援を開始
- 2012年 シリア難民支援を開始
- 2017年 ロヒンギャ難民支援を開始
- 2020年 新型コロナウイルス感染症対策支援を開始
- 2022年 ウクライナ緊急支援を開始

2022年度の主な活動

- 2022年 5月18日 『ウクライナ避難民のための緊急チャリティコンサート』開催
- 6月23日 アフガニスタン地震被災者支援開始
- 8月5日 令和4年8月豪雨被災者支援開始
- 8月20日 トークセッション『ロヒンギャ難民を忘れない～人道危機発生5年&混迷するミャンマーの行方』開催
- 8月29日 パキスタン洪水緊急支援開始
- 2023年 2月6日 トルコ地震緊急支援開始
- 2月18日 オンライントークイベント『堀潤さんと語るウクライナ危機1年～厳冬のキーウ現地緊急報告』開催

Message

ごあいさつ

大きな支えに心より御礼申し上げます

平素よりAAR Japan「難民を助ける会」の活動に深いご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

2022年は、第二次大戦後最悪とも呼ばれるウクライナ危機が発生、他にも大規模な自然災害が多発し、世界全体で稀に見る苦難の一年となりました。また、政変後の混乱が続くアフガニスタンで大規模な地震が起り、トルコ地震では以前から避難生活を送っていたシリア難民が多く被災しました。元々厳しい状況に置かれた人々がさらに窮地に追いやられるような複合的な人道危機も続きました。

世界の至るところで喫緊の支援が必要とされている状況において、AARに皆さまから託していただいたご寄付は、44年の歴史の中で最も大きい規模となりました。皆さまからのご支援がなければ、ウクライナ難民への支援を継続・拡大しながら、いくつもの緊急支援を迅速かつ同時に実施することは成し得ませんでした。AARを信頼して大きな支えをくださったすべての皆さまに、衷心より御礼申し上げます。

この年次報告書では、一年の活動の成果をご報告しています。引き続きのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。



理事長 堀江 良彰

Index

- | | | |
|------------------|---------------|--------------------|
| 02 AARとは | 10 難民支援 | 21 国内活動 |
| 03 ごあいさつ | 14 地雷・不発弾対策 | 23 実施体制 |
| 04 数字で見る2022年度 | 15 災害支援 | 24 ご支援企業・団体・個人のご紹介 |
| 06 2022年度の活動について | 16 障がい者支援 | 26 会計報告 |
| 07 緊急支援 | 20 感染症対策／水・衛生 | 28 ご支援の方法 |

より詳しい活動報告は、ホームページの「2023年度総会記録」でご覧いただけます。

数字で見る2022年度



トルコ共和国

👤 16,025人
 ¥ 180,894,526円

緊急支援▶P.8
 難民支援▶P.12



アフガニスタン・ イスラム首長国

👤 40,011人
 ¥ 157,710,809円

緊急支援▶P.7、P.9
 地雷・不発弾対策▶P.14

ウクライナ、 モルドバ共和国

👤 80,286人
 ¥ 379,354,728円

難民支援▶P.10、P.11
 地雷・不発弾対策▶P.14

シリア・ アラブ共和国

👤 37,114人
 ¥ 116,959,342円

難民支援▶P.12
 障がい者支援▶P.18

スーダン共和国

👤 586人
 ¥ 16,149,744円

感染症対策／水・衛生▶P.20



ウガンダ共和国

👤 1,819人
 ¥ 48,419,121円

難民支援▶P.13
 地雷・不発弾対策▶P.14

ザンビア共和国

👤 2,200人
 ¥ 58,236,661円

難民支援▶P.13

ケニア共和国

👤 11,262人
 ¥ 77,500,929円

緊急支援▶P.8
 難民支援▶P.13



パキスタン・ イスラム共和国

👤 9,503人
 ¥ 119,545,720円

緊急支援▶P.7 障がい者支援▶P.19
 感染症対策／水・衛生▶P.20

タジキスタン 共和国

👤 542人
 ¥ 65,785,128円

障がい者支援▶P.19

バングラデシュ 人民共和国

👤 4,389人
 ¥ 42,480,434円

難民支援▶P.12

ミャンマー 連邦共和国

👤 27,633人
 ¥ 86,599,075円

緊急支援▶P.9
 障がい者支援▶P.18



ラオス 人民民主共和国

👤 262人
 ¥ 42,180,862円

障がい者支援▶P.17



カンボジア王国

👤 606人
 ¥ 46,212,183円

障がい者支援▶P.16、P.17



日本

👤 5,929人
 ¥ 65,807,544円

難民支援▶P.11
 災害支援▶P.15

AARに寄せられたご支援

寄付・会費 7億9,881万7,288円
 支援者数 1万5,882人
 寄付件数 4万7,842件
 マンスリーサポーター 2,218人

AARの活動により世界に届いた支援

活動国 16カ国
 事業数 33
 直接受益者数 23万8,167人
 支援事業費 15億921万6,204円

👤 直接受益者数(支援を直接届けた人数)

¥ 活動規模(事業決算)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



AARは、SDGs(持続可能な開発目標)の17のゴールのうち、上記11のゴールに直接寄与する活動を行っています。

2022年度

活動報告

ACTIVITY REPORT



心からの感謝を込めて

2022年度は、昨年2月に勃発したウクライナ危機への人道支援をはじめ、アフガニスタンおよびミャンマーでの政情不安による国内避難民への支援を継続したほか、パキスタン洪水、トルコ大地震など大規模災害への緊急支援にも出動しました。

アジア、中東、アフリカにおける難民支援や地雷不発弾対策、障がい者支援など6分野の長期的支援も継続して行い、16カ国で33のプロジェクトを実施し、23万8,167人に支援を届けました。

日本国内では、ウクライナ情勢やトルコ地震などへの関心が高まる中、企業・団体の皆さまとのさまざまな協働プロジェクトを実施し、支援の輪を広げることができました。

心からの感謝を込めて2022年度の活動をご報告いたします。



事務局長 古川 千晶

Emergency Support

緊急支援

受益者数
44,342人

事業規模(事業決算額)
233,799,998円

紛争や自然災害が起きた際、迅速に出動し、難民・避難民や被災者の中でも特に脆弱な立場にある人々を支援しています。

アフガニスタン地震被災者支援



南東部で2022年6月にマグニチュード5.9の地震が発生。AARは女性が世帯主となっている家庭や障がい者がいる家庭などに小麦粉や食用油、緑茶や豆などの食料を約2,100人(300世帯)に配付したほか、自家発電のためのソーラーパネル一式を約3,520人(400世帯)に提供しました。併せて地雷・不発弾の被害に遭わないよう呼びかける回避教育を実施し、それらのメッセージが付いたノートやリーフレットを子どもたちに渡しました。



サキ・ディーンさん

「私は障がい者ですが、もともと政府から何の援助も受けられていませんでした。食料支援は本当に助かります。今は壊れた家の代わりになる場所が必要です。また、電気がないのでソーラーパネルも必要です。私たちを助けてくれたAARに感謝します。これからも支援を続けてください」

食料支援は
本当に助かります

パキスタン洪水被災者支援

2022年8月、記録的な洪水被害に見舞われた北西部ハイバル・パフトゥンハー州で、AARは障がい者やアフガニスタン難民の世帯を中心に、小麦粉や食用油などの食料と衛生用品を配付したほか、安全な水を提供するために給水車を手配しました。破損した共同井戸の修繕や新しい井戸の掘削を行い、共同井戸は住民が維持管理できるような体制を構築しました。さらにアフガニスタン難民居住地では、不足していた女性と子ども向けの簡易トイレと手洗い場を設置。約5,900人(1,180世帯)に支援を届けました。



給水車による生活用水の支援

これからは安心してトイレを使えます



アフガニスタン難民居住地で暮らす サディカ・グルさん(35歳)

「私たちの集落がすべて流されました。援助機関がテント近くに立ててくれたトイレは女性が使えず、昼間はトイレを我慢し、夜中に外に出て済ませていました。いつも怖く感じていました。においや衛生面でも切実な問題でした。女性が安心して使えるトイレができたのは、暮らしの再建に向けた大きな一歩です」

トルコ地震被災者支援



支援の届かない村落部を重点的に支援

トルコ南東部で2023年2月にマグニチュード7.8の地震が発生し、隣国シリアと合わせて5万6,000人超の人々が犠牲になりました。AARは発生直後から被災地に入り、小麦粉、コメ、豆類などの食料や毛布、子ども用おむつなどを配付しました。特に、道路が寸断されるなどして都市部と比べて支援が届きにくい農村部を中心に物資を提供し、12,125人に支援を届けました。

ラヒメさん(50歳)

「十分な貯えがないうえに収入も失って、すぐに家を建て直すことなどできません。地震の直後は夜間とても冷え込み、家を失ったショックもあって、心身ともに追い詰められていました。食料も毛布もなく途方に暮れていた時、支援が届いて本当に安心しました」



途方に暮れていた時、
支援が届きました

発災翌日に支援物資を配付

アフガニスタン国内避難民支援

長年続く干ばつや紛争に加え、2021年8月の政変による経済状況の悪化で生活に苦しむアフガニスタンの人々。AARは国内避難民や障がい者世帯、女性が世帯主の世帯など、より困難な状況に置かれている約13,160人(1,880世帯)に食料や生活必需品を配付しました。併せて地雷・不発弾の被害に遭わないよう呼びかける回避教育を実施し、それらのメッセージが付いたノートやリーフレットを子どもたちに渡しました。



支援物資を受け取る人々

ジュマさん(30歳)

「子どもの頃、鉄くず拾いの仕事中に感電して手足を失いました。アイスクリームを売る仕事をしていますが、息子が4人いて、生活は苦しいままです。糖尿病を患っていますが、薬を買う余裕もありません。アフガニスタンでは仕事がなく、ほとんどの人が貧しい状況にあります。寒い季節の食料支援は本当に助かります」

ほとんどの
アフガニスタン人が貧しい



ケニア食料危機への緊急配付

ウクライナ情勢の悪化や長引く乾季による干ばつの影響を受けて、2022年から物価高騰と食料危機が深刻化しています。AARがこれまで難民支援を行ってきたトゥルカナ西準郡で、生活に苦しむ地域住民の中でも高齢者や障がい者、未成年が世帯主といったより困窮した2,263人(371世帯)にコメや豆、ミルク、食用油などを提供しました。

エジョ・コルミナ・エルコンさん(74歳)

「このあたりでは干ばつの影響で皆飢えています。私は高齢なうえ障がいがあるため、働くことも食べ物を探すこともできずにいました。AARの職員が来て私たち家族の置かれている状況を聞いてくれました。本当にありがとう」



支援物資を配付するケニア・カクマ事務所の中川梨緒奈

高齢で障がいもあり
食べ物がありませんでした

ミャンマー緊急人道支援

2021年2月の非常事態宣言発令以降、ミャンマーでは不安定な情勢が続いています。AARは、これまで障がい者支援を行ってきたヤンゴン・カレン地域で、障がい者を含む生活に困窮する5,274人に食料や衛生用品を配付したほか、生活費を賄うための現金を支給しました。



「食料価格が高騰し、
生活が厳しく」

ミャンマー・パアン事務所
安齋 志保

非常事態宣言発令以降、ミャンマー国内の物価は大幅に上昇し、コメや油など、日々の暮らしに欠かせない食料の値段は2倍～3倍となっています。特に障がいのある方々は仕事を見つけることが難しく、厳しい生活を強いられており、支援を必要としています



(左) 障がい当事者を含む地域のボランティアを介して、地域の障がい者に現金を給付 (右) 支援物資

受益者数
131,974人事業規模(事業決算額)
846,086.353円

Pick up

- ウクライナ、モルドバでのべ75,704人のウクライナ難民・避難民を支援
- トルコ、シリアで38,569人のシリア難民・避難民を支援
- ケニア、ウガンダの難民居住地で教育支援を実施し、のべ10,803人を支援

ウクライナからモルドバに
逃れたスザンヌさん

紛争や迫害により、住んでいた土地を離れて避難生活を送る難民や国内避難民、祖国へ戻った帰還民、避難先での定住を決めた元難民への支援を9カ国で実施しました。食料や衛生用品の配付、教育支援、安心して生活するための情報提供や心のケア、職業訓練など、国や地域、状況に応じた支援を行っています。

どうなっていたでしょうか

AARの支援がなかったら

モルドバ〈ウクライナ難民支援〉

スザンヌさん(35歳)

「ウクライナ南部のオデーサにある自宅近くの軍事施設が攻撃され、3人の子どもたちを連れて隣の国のモルドバに逃れました。AARの食料支援がなかったら、私たちは町で食べ物を恵んでもらうしかなかったでしょう。あるいは危険を冒してウクライナに戻らなければならなかったと思います。本当に感謝しかありません。

トラウマの症状を見せる子もいて心配ですが、多くの子どもたちが、AARがつくったチャイルド・スペースで遊んで笑顔を取り戻し、それを見ている私たちも笑顔になれます」

@Yoshifumi Kawabata



(上) AARが支援する福祉施設の元に届いた発電機
(右) 身体障がい者の当事者団体「リーダー」代表のヴァレンティーナさん(中央)と話すAARモルドバ駐在員の東マリ子

ウクライナ〈障がい者支援〉

ヴァレンティーナさん

(身体障がい者の当事者団体「リーダー」代表)

「停電が続き、発電機も高額で入手が困難でした。AARの支援で届けられた発電機を見て涙が出ました。各施設の担当者に『発電機が届くよ』と知らせたら、彼らも同じように泣きました。日本の皆さんの温かい支援に心から感謝しています」

届いた発電機を見て
涙が出ました

日本〈難民・避難民支援〉

ヴィクトリアさん(21歳)

「首都キーウの大学院で日本語を学んでいましたが、ロシアの軍事侵攻が始まり、母から海外に逃げるように言われました。父はウクライナ軍に加わって戦っています。私は日本語を活かして避難民の子どもたちをサポートする仕事をしながら、大学に通い始めました。日本に来てほっとしていますが、生活費や医療費が大変です。私には弟がいますし、彼に対する責任も抱えています。住まい、学校、手続き、考えないといけないことは山のようにあります。一時金の支給だけでなく、日本の皆さんに精神的にも支えられています。ありがとうございます」

支えられています

精神的にも



当時17歳の弟と2022年4月に来日したヴィクトリアさん

活動報告

ウクライナ 国内避難民や障がい者の生活環境の整備と心理的サポート

障がい者とその家族のための保養プログラム、障がいのある避難民への食料や家電の配付、現金給付を**4,927人**に実施。ウクライナ西部で避難する約**1,200人**には隣国ポーランドから物資を提供した。



モルドバ 難民および受け入れ地域への支援

ウクライナ難民に食料や生活必需品を配付。首都キシナウの避難所や中西部ファレストイ県でチャイルド・フレンドリー・スペース(子どものための施設)を整備し、難民の心理社会的支援を実施。キシナウおよび北部7県で個別のニーズに応じた支援も開始し、全体でのべ**69,577人**を支援した。



日本 難民・避難民の日本での生活を後押し

緊急一時金の支給、生活相談:姉妹団体「社会福祉法人さばうと21」と協働で、母国の紛争・政情不安からの退避を目的としてウクライナやアフガニスタンから来日した難民・避難民**297人**に緊急一時金を支給したほか、2023年1月からは避難民一人ひとりの困りごとの相談に応じる支援を開始し、**12人**の生活相談に応じた。



「不安定な暮らしの中にささやかな安らぎを」 東京事務局 小田 隆子

2022年8月、AARがトルコのシャンルウルフアで運営するコミュニティセンターで手芸のワークショップを開催しました。障がいのある方が参加し、シリア人とトルコ人の交流の場ともなる6回のセッションには、定員を超える参加者が集まりました。初めは難しいと言っていた方からも、終了後にはもっといろいろなものを習いたいという要望が聞かれました。「作っている間は心配や不安を忘れることができ、心がすっきりした」との声も。シリア内戦から12年、帰国の目途も立たずトルコで不安定な暮らしを続ける彼女たちの暮らしの中に、ささやかな安らぎや喜びをもたらすことができたと思います。



講師を務める小田（中央）

シリア〈農業支援〉

アブ・サットゥーフさん（55歳・小麦の栽培研修に参加）

「2014年にシリア軍による大規模な砲撃を受けて、私たち家族は数年間、村を離れなければなりませんでした。その間に村は荒廃し、多くの住民が去りました。私は農業を続けましたが、肥料を買う余裕もなく、治安の悪化や水不足で苦しい時期が続きました。AARの研修は非常に有益でした。おかげで良質な小麦を4トンも収穫し、家族のために少しばかりお金を貯めることができて、本当に感謝しています」



バングラデシュ〈ロヒンギャ難民支援〉

セタラさん（AARが運営する施設のボランティア）

「ミャンマー国軍による2017年の武力弾圧の際、バングラデシュに逃れてきました。テクナフ郡の難民キャンプで、AARがつくった女性のためのフレンドリー・スペース（WFS）のボランティアをしています。近隣の家を回って、夫からの暴力や児童婚など『ジェンダーに基づく暴力（GBV）』について説明したり、病院に行く付き添いをしたり……とてもやりがいがありますし、いろいろな知識を得られるのがうれしい。WFSでミシンを使ったのが楽しかったので、いつか縫製の技術を身につけたいです」



活動報告

トルコ 長期化するシリア難民の避難生活を支援

個別支援:子どもと障がい者**576人**に、必要な公的サービスが受けられるよう支援したほか、障がい者への補助具の提供など、公的支援が不十分な分野はAARがサポート。

現地団体とボランティアの能力強化:難民支援や障がい者支援を行う**9団体**、ボランティア**23人**に研修を行い、自ら継続的な活動ができるよう支援。

障がいインクルーシブなコミュニティセンターの運営:新型コロナウイルスの影響で2020年3月から閉鎖していたコミュニティセンターを2021年12月より再開。障がい者の社会参加を促すため障がい者を優先的に受け入れ、グループ活動やイベントなどを実施し、のべ**3,288人**が参加した。



シリア 物資の配付と生活再建のための農業支援、障がい者のサポート

衛生用品の配付、感染症対策:国内避難民（IDP）キャンプで新型コロナウイルス対策のための衛生用品配付、感染予防の啓発活動、給水支援を**25,401人**に実施。

食糧配付・農業支援:パンを製造し、国内避難民キャンプで**9,048人**に継続的に配付したほか、農業従事者**250人**に農業研修を実施し、小麦栽培を支援。



バングラデシュ ロヒンギャ難民の女性が安心して過ごせる環境を

ロヒンギャ難民キャンプとホストコミュニティでの女性支援:ミャンマーとの国境に近いテクナフ郡で、女性のためのフレンドリー・スペース**2カ所**を運営し、カウンセリング、レクリエーション活動などを実施したほか、暴力などの被害に対する個別支援や医療支援への照会も行った。また、受け入れ地域で住民ボランティアグループを作り啓発講座を開催、女性に衣類や衛生用品を提供した。全体で**4,389人**に支援を届けた。



ケニア〈教育支援〉

スーザンさん（AARの支援で復学）

「南スーダンの紛争が悪化し、生活がめちゃくちゃになりました。私は教育を受けるため、叔母と一緒にケニアに来ました。その後叔母は帰国し、今は一人で暮らしています。食料支援に頼る生活では満足に食べることもできず、家族とは連絡もつかない状況ですが、『勉強する』という強い信念に支えられています。今回の支援で中等教育を受けられることになりました。全力を尽くして勉強し、高等教育への進学を目指します」



勉強をするという信念に
支えられています



将来は、
村の子どもたちに
勉強を教えてあげたい

ウガンダ〈教育支援〉

アロヨさん（AARの支援で復学）

「コンゴの内戦で両親を亡くし、祖母と兄弟と一緒にウガンダに逃れてきました。生活に余裕がなく、通学のために必要な学用品は何も持っていませんでしたが、AARの支援を受け、授業にしっかり出席できるようになりました。友だちと一緒に勉強するのがとても楽しいです。将来は先生になって村の子どもたちに勉強を教えてあげたいです」

ザンビア〈元難民現地統合化支援〉

パスカルさん（AARが支援する自助グループの代表・写真左）

「AARの支援を通じて多くの知識とモチベーションをもらいました。グループの農地は徐々に規模を大きくしており、共同財産も増えました。いつかこの資金でトラクターを買い、メンバーたちが共同で使えるようにしたい。40年前に内戦状態だったアンゴラから両親と3人でザンビアに逃れてきました。今、子どもが8人、孫が12人。私が望むのは、豊かになって子どもや孫たちにしっかりとした教育を受けてもらうこと。私自身はその機会がなかったのね」



AARの支援から
知識とモチベーションを
もらいました

ケニア 就学を望む子ども・若者の教育環境整備と進路指導

教育支援:北西部にあるカロバイエ地域の中学校**2校**において、図書室や教室の建設、教員・保護者・生徒による維持管理チームの能力強化などを通じて教育環境を整備した。生徒からの相談に応じる担当教員の能力向上のための研修を実施したほか、生徒・教員にもキャリアセミナーを実施して進路指導体制を強化。コミュニティセンターでの教育相談や、巡回による不就学者の支援も行い、生徒・教員ら**8,999人**を支援した。



ウガンダ 子どもたちが安心して学校に通い続けられるように

保護・教育支援:西部のチャングワリ難民居住地で、継続的な初等教育校の通学に課題を抱える児童**183人**の個別支援を計画、学用品などの配付と家庭訪問などを実施した。児童**1,080人**に英語学習の支援、保護者にはワークショップを開催して児童の中退防止に取り組むなど、全体で**1,804人**を支援した。



ザンビア 定住地で自立し、継続的な収入を得るために

元難民現地統合化支援:北西部のメヘパ元難民再定住地で、元難民とザンビア人約**2,200人**からなる**11の自助グループ**を対象に収支管理や作物栽培の研修を開催。住民らによる共同輸送の提案など販路が拡大できるようなサポートを通じて住民の生計向上を促進した。また、住民の教育機会を拡充するため、中等教育施設の建設と教員研修体制の構築に向けた調整も行った。



Mine Action

地雷・不発弾対策

受益者数
25,828人

事業規模(事業決算額)
37,908,678円

ウクライナでの地雷除去の様子

地雷や不発弾・簡易型の即席爆発装置(IED)などの危険から身を守るためのリスク回避教育、イギリスの地雷除去団体NGO「ヘイロー・トラスト」を通じた地雷除去を実施したほか、ウガンダで被害者支援を実施しました。

薪集めの途中、
不発弾が爆発し、
右足を失いました



アフガニスタン〈地雷・不発弾除去〉

サイードさん(14歳)

「丘で薪を集めていた時に、斧が不発弾に触れて爆発しました。兄弟や近所の人が集まってきて、近くの病院に連れて行ってくれました。カブールの救急病院に搬送され、2週間入院して家に戻りました。地雷や不発弾をすべて取り除いてほしいです。そうすれば、みんな安全に薪集めができます」

「あきらめずに続けていく覚悟と
強い意志が試されています」



東京事務局
紺野 誠二

2023年6月、ウクライナ・ヘルソン州のダムが決壊し大規模な洪水が発生しました。洪水で地雷が流れたとすれば、地雷原は広がり、除去済みの土地の再調査も必要です。ウクライナ地雷対策はますます多くの資金と時間がかかることになりました。地雷除去はこうした予測できない事態や困難の連続です。しかし、活動を続けていけば状況は必ず改善します。試されているのは、あきらめずに続けていくという私たちの覚悟、そして強い意志だと思います。



活動報告

アフガニスタン 子どもと女性が爆発物の被害に遭うリスクを回避できるように

包括的地雷対策:カピサ県、パルワーン県、ナンガハール県、ラグマン県で子どもや女性**16,285人**を対象に爆発物リスク回避教育を行い、子ども向けの回避教育についての教材を配付。また、地雷、不発弾を除去し、**約649,453平方メートル**の地雷原を安全な土地にした。



ウガンダ 地雷・不発弾被害者のリーダーの能力強化

地雷被害者生計支援:地雷・不発弾被害者のリーダー**10人**を対象に、彼らが活動する地域で被害者の支援計画を策定・実践できるようワークショップを開催。また、地雷・不発弾被害者の中でもトイレの使用に困難を抱える**5人**がバリアフリートイレを利用できるよう準備を進めた。

ウクライナ 国内での地雷除去を開始。人々の安全を守る

包括的地雷対策:ウクライナ国内の戦間が終結した地域で地雷・不発弾除去を2022年9月に開始。地雷の除去を通じて、その土地を利用する**4,532人**の安全を確保した。



Disaster Relief

災害支援

受益者数
5,620人

事業規模(事業決算額)
32,200,532円



つらい中でも
楽しい経験をできて
良かったです

一方、帰還解除されなかったり、生活インフラへの不安から帰還できなかったりする方々が未だ多くおられる上、第一原発事故の影響や過疎化など福島は諸問題を抱えています。高齢者の自死や孤独死も起きています。ある男性は、AARのスタッフのために手作りの革細工のキーホルダーをプレゼントしてくれました。物理的な支援よりも「世間では理解されていない状況にあることを理解してくれる人たちが頻繁に来てくれる」という気持ちの表れだと想像しています。引き続き福島を忘れず活動していきます。



東北事業担当 大原 真一郎(写真右上)

東日本大震災〈地域交流イベント〉

「長い間お世話になりました。つらい中でも楽しい経験もできて良かった。ありがとう」。2023年3月、42回にわたって継続してきた福島得県相馬市の小池原畑第二仮設住宅の元住民の交流会を終了しました。参加者たちは各々10回前後、避難場所を転々とした経験があり、そうした観点から長期にわたって支援しましたが、それぞれが忙しくなり交流会を終了することになりました。非常に喜びを感じられる支援の事例です。

活動報告

令和4年8月豪雨被災者支援 活動再開や生活再建に向けた支援

新潟県村上市の災害ボランティアセンターや小岩内地区自治会、障がい福祉施設などに大型扇風機や高圧洗浄機などの物資を配付。NPO法人ピースプロジェクト(代表:加藤勉AAR理事)と連携して炊き出しを実施、10日間で**計2,035食**を被災者に提供した。自宅で避難生活を送る要支援世帯の**3世帯**、仮設住宅の集会所**1カ所**に電化製品や家具などの生活必需品を配付し、被災者**約50人**が早期に生活再建できるよう支援した。



台風15号被災者支援 施設の復旧を通じて利用者の日常生活をサポート

被災した静岡市の障がい者就労支援施設、生活介護事業所の**2カ所**に、浸水によって故障した室外機やエアコン、利用者の洗髪や排泄介助の際に使用する昇降式電動マッサージ台を提供した。磐田市のグループホームには、浸水により使用できなくなった利用者用ベッドやマットレスなどの家具一式を提供するなど、**37人**に支援を届けた。



東日本大震災被災者支援 生活再建の支援や被災者の交流促進、防災イベントを開催

被災者の交流促進・生活再建支援:孤独や体調不良を防ぐため、「地域みんなで元気になるうプロジェクト」として、岩手県、宮城県、福島県内に居住する被災者を対象にマッサージや傾聴活動などを**76回**開催し、のべ**2,562人**が参加。福島県内の自治会や社会福祉協議会などと連携し、防災イベントを**27回**開催した。また、東京都武蔵野市で活動する避難当事者団体と連携し、福島県外の避難者を対象とした交流イベントを**25回**実施。福島県南相馬市の保育園児ら**216人**へのミネラルウォーターの提供を継続したほか、宮城県石巻市の被災者の生活再建支援も実施。
ワクワク子ども塾の開催:福島県浜通り地域に住む親子を主な対象とした保養・地域交流プログラムを**2回**開催し、**74人**が参加した。
災害被災者支援:台風19号で被害を受けた福島県川俣町の住民と被害防災マップを作成して配付した。2022年3月に発生した福島県沖地震で被災した福島県・宮城県の障がい福祉施設**3カ所**では施設建物の修繕、車両の修理費用を支援した。





受益者数
29,817人



事業規模(事業決算額)
337,239,374円



Pick up

- 4カ国でインクルーシブ教育(IE)※を推進し、障がい児や教員など21,077人を支援
- パキスタン、タジキスタン、ミャンマーの8つの学校でバリアフリートイレなどを設置し、障がい児(者)の学べる環境を整備
- ミャンマー、ラオス、タジキスタンで計479人に職業訓練や技術指導を行い、就労を支援

※インクルーシブ教育(IE:Inclusive Education):障がいの有無や人種、言語の違いなどに関わらず、すべての子どもたちに開かれた教室、学習施設、教育制度

昔に比べて、先生の
障がいへの理解が高まり
サポートしてくれるようになりました



障がい者支援委員会がファシリテーターを務め、地域住民対象の啓発イベントを開催

カンボジア

〈障がい児のためのインクルーシブ教育普及〉

ティ・ソティアラさん(上写真中央)

「生まれつき右半身にまひがあり、一生歩くことはできないと思っていました。人と話すことも苦手で、座ることもうまくできなかったので学校に行けるとも思っていませんでした。AARの支援で専門機関に通い、ストレッチ、マッサージ、動作の練習方法を学びました。今は学校に通い、登校時はお母さんがバイクで送ってくれますが、帰りは歩行器で歩いて帰ってきます。AARが校舎のバリアフリー工事や先生への研修をしてくれたので、以前よりも障がいへの理解が高まり、サポートしてくれるようになりました」

障がいのある方々の経済的・精神的・社会的自立を支援する活動を通じて、「障がいがあってもなくても、ともに支え合うことのできる社会」の実現を目指しています。2022年度は、6カ国でインクルーシブ教育の推進や、生計支援を実施しました。

今までは障がいのために
何もできないと思っていました



上:AARが実施するキノコ栽培研修に参加したチウワンさん(中央)と、モン語のみを話すチウワンさんにラオ語の通訳してくれた同じ村のテンションさん(写真右)、AARビエンチャン事務所のカイソン(写真左)
左下:栽培研修の様子

ラオス

〈インクルーシブな地域社会の推進支援〉

チウワンさん(22歳・写真中央)

「キノコを上手に栽培して収入が得られたら、自分の銀行口座を開いて貯金したい。それを元手にして、将来はキノコを販売する店を持ちたいですね。今までは障がいのために何もできないと思っていましたが、研修を通じて気持ちが変わりました。AARの研修に参加できて本当にうれしいです」

活動報告

カンボジア 障がい児の教育支援体制を強化。バリアフリートイレの建設や車いすなどの補装具も提供

インクルーシブ教育(IE)の普及:インクルーシブ教育の評価基準と事例集についてのワークショップを開催し、国内全州に共有した。モデル地域の取り組みを国内に広めるため、教育省や他地域のNGO職員の視察を受け入れた。ソンロン集合村では、郡内初のバリアフリー公衆トイレを建設。さらに、教員や行政官らへの研修を継続し、障がい児への教育支援体制を強化するなど、全体で**552人**を支援した。

障がい者への社会参加支援:ブノンペン特別市で、車いす工房「AAR,WCD」が車いすを製造・配付するための費用を支援。**352人**に車いすや杖などの補装具を提供した。また、同工房の事業運営と資金管理能力向上のためのサポートも行った。



ラオス 障がいのある人々が社会活動に参加し、自立できるように

障がいインクルーシブな地域社会の推進支援:障がいの有無にかかわらず適切な配慮を受け、ともに活動できる社会づくりのため、バクベン、ベン両郡で障がい者らでつくる地域ネットワークの設立を支援した。また、障がい者とその介助者が生計を立てられるよう、両郡でキノコ栽培やヤギ飼育などの技術研修を行い、活動に必要な資材を提供した。併せて、現地障がい者団体の能力強化、行政職員・地域への啓発活動などを実施し、**262人**を支援した。



自分の人生に
立ち向かう方法を
教えてもらいました



AARが運営する障がい者のための職業訓練校のコンピュータコースで学ぶミ・シュエ・タイさん



ミャンマー

〈障がい者のための職業訓練校の運営と就労支援〉

ミ・シュエ・タイさん

「AARの職業訓練校のコンピュータコースで学んでいます。ここに来る前は、家にこもりがちで、友だちに誘われても負担をかけるのではないかと心配になり、一緒に出かけることはありませんでした。自信がまったくありませんでした。

職業訓練校では、コンピュータの技術だけでなく、さまざまな知識を教えてもらい、自分の人生に立ち向かう方法を教えてもらいました。この職業訓練校を応援してくださる日本の皆さまに感謝しています」

ミャンマー〈障がい者への経済的自立支援〉

カインさん（仮名・AARが支援する当事者グループのメンバー）

「私は生まれた時から視力が弱く、今はほとんど見えていません。近所に出かけるくらいしかできず、憂鬱で希望も持てない状況でした。

AARが行う、障がいに関する知識やリーダーシップ、カウンセリングなどの研修を受けることができ、自信を持って外出したり地域の集会に参加したりできるようになりました。今では地域の障がい者を励まし、障がい当事者グループを引っ張っています。地域のほかの障がい者の模範になりたいです」

地域の障がい者の模範になりたい



個人が特定されないよう写真を加工しています



自分の脚で
立てるようになった

シリア〈障がい者支援〉

フムード・アキダさん（11歳・写真左）

「僕はずっと歩けなかったんだけど、治療を受けて自分の脚で立てるようになったんだ。とてもうれしい。将来は学校の先生になりたい」

活動報告

ミャンマー 障がい者の就労・教育支援を多方面から実施

障がい者のための職業訓練校の運営と就労支援：新型コロナウイルスの影響と政変後の混乱で休校していた訓練校を2022年9月に再開。**54人**の訓練生を受け入れ、職業訓練のほか社会性を育むための活動を行った。卒業生には相談対応や就労斡旋も実施。

子どもの未来（あした）プログラム：治安悪化の影響で障がい児のリハビリ指導や学習支援は電話やオンラインが中心だったものの、治安状況に留意し2022年9月より障がい児の家庭訪問を再開。障がい児**32人**に補助具や学習教材などを配付したほか、健康診断を実施した。

インクルーシブ教育（IE）支援：ヤンゴンやカレン州で、学校のバリアフリー工事などを行ったほか、保護者や地域住民からなるサポートグループを設立し、**16,395人**を支援。

障がい者の自立支援：他団体と協働で、障がい者**700人**に職業訓練や金融サービスなどの研修を実施。

シリア 障がい者の心身機能の改善および住民への啓発活動

障がい者支援：国内避難民キャンプおよび地元住民の障がい者とその家族など**2,445人**への支援を通じて、障がい者の心身機能を改善するとともに、住民への啓発活動を実施し、障がい者の社会参加を促進。



両親がこの学校を見つけてくれたよ



パキスタン

〈障がい児の学習支援環境構築〉

アブドゥル・ハディくん（8歳）

「生まれつき両脚にまひがあり、歩くことができません。以前通っていた学校がバリアフリーでなかったため、学校生活を楽しめず、学校が好きではありませんでした。両親は、僕を心配して、僕が行ける学校を探していたところ、AARの支援を受けインクルーシブ教育を推進しているこの学校を見つけてくれました。学校でたくさんの友だちができ、学校がとても好きになりました。学校内では、スロープを使ってどこへでも行けるようになり、友だちと一緒に遊べる場所が増えました。風邪を引いたりして学校に行けない日はとても寂しいです。以前より人前でハキハキと自信を持って話せるようになったね、とお父さんが言ってくれました」

タジキスタン

〈障がいのある女性とその家族の自立支援〉

メフロナさん（18歳）

「3歳の時に受けた予防接種が原因で左足が不自由になりました。幼い頃から裁縫が好きでしたが、専門的な技術はありませんでした。

AARの半年間の洋裁コースを修了した後、私の人生は大きく変わりました。顧客を見つけ、その人たちのためにドレスを縫い、数カ月後には自分でもお金を稼ぐことができました。

大学でデザインを学び、将来は自分の工房を持ちたいです。ほかの障がい者のためにも、このようなプロジェクトが増えたらいいと思っています」

このようなプロジェクトが増えたらいいな



パキスタン 障がいのある子どもたちが学校で学べるように

障がい児の学習支援環境構築：北部ハリプール郡の小学校**6校**で、バリアフリー化工事や教員への研修を行い、障がい児の受け入れ体制を整え、地域の障がい児の就学を働きかけた。教員や児童、保護者、地域住民に障がいの理解を促す授業やワークショップも実施。障がい児と家族ら**3,603人**に支援を届けた。



タジキスタン インクルーシブ教育（IE）の拡大と障がいのある女性たちへの洋裁職業訓練

インクルーシブ教育（IE）のための教職課程の構築：北部ラシュト市の大学で、教職課程担当教員にIE研修を実施したほか、授業の指導実例集を作成。校内のバリアフリー化も行った。東部5地域では障がい者と保護者を対象に進学説明会を実施するなど、**527人**を支援した。また、教育科学省らとIEに関する取り組みや課題を議論し、政府が改訂中の「IEにおける国家概念的枠組み」への提言書を教育省担当官に提出した。

障がい者と家族の自立支援：首都ドゥシャンベ市近郊のヒッサール市で、障がいのある女性とその家族**15人**を対象に12カ月間の洋裁職業訓練を実施。起業のためのビジネススキル研修も行った。作品展示会を通じて**約1,000人**の地域住民の障がいに対する理解を促進した。





Fighting Infections／WASH

感染症対策／水・衛生



受益者数
586人



事業規模(事業決算額)
160,601,871円

マイセトーマについての知識を伝える啓発活動

不衛生な環境や医療施設の不足などによって感染症で命を落とす状況を改善するため、衛生施設の整備や正しい知識と適切な治療の提供を行っています。2022年度はスーダンでマイセトーマ※対策、パキスタンの洪水緊急支援でのトイレの整備、障がい児の教育環境の整備の一貫で小学校の手洗い場やトイレの整備に取り組みました。

※マイセトーマ菌種とは、特定の細菌や真菌が傷口を経由して体内に入り、皮下組織を徐々に破壊していく感染症。顧みられない熱帯病(Neglected Tropical Diseases: NTDs)の一つ。

スーダン〈感染症(マイセトーマ菌腫)対策〉

マイセトーマは、細菌や真菌が原因となって筋肉や骨を冒していく感染症で、足や手などに炎症が生じ、重症の場合は四肢の切断が必要になります。同国ではマイセトーマに関する知識が十分でなかったり、医学的根拠のない処置をしたりして、適切な治療が遅れる例が見られます。AARは2019年よりこの問題に取り組んでいます。



AARが派遣した医療チームによる手術の様子

「啓発活動を通じた予防にも力を」 スーダン・ハルツーム事務所職員 アダム

マイセトーマ患者の多くは地方の貧しい地域に暮らしており、経済的に困窮していることは珍しくありません。2022年に支援した患者の一人は、重症化したため手を切断しなければならませんでした。農業に従事していたこの男性の稼ぎでは手術を受けることは難しく、支援に非常に感謝をしていました。引き続き患者が必要とする支援を届けるとともに、啓発活動を通じた予防にも力を入れていきます。



活動報告

スーダン 顧みられない熱帯病マイセトーマ患者の治療、正しい知識の周知

感染症対策:首都ハルツームの病院とマイセトーマ感染症がまん延する中東部のジャジール州で、現地の協力団体を通して患者95人に治療や手術を行った。また、地域住民**403人**に感染症の特徴や早期治療の重要性を伝える啓発を行ったほか、医学部生や現地団体職員的能力強化にも取り組んだ。

パキスタン 小学校でのトイレや手洗い場の整備、洪水被災地での衛生環境改善

洪水被災者支援:洪水で破損した共同井戸の修繕や新しい井戸の掘削、給水支援を実施。また、簡易トイレと手洗い場の設置を行なった。

小学校での衛生環境の整備:小学校**4校**で、トイレや手洗い場の整備を行った。

※パキスタンでの水・衛生事業の受益者数、事業決算額は洪水被災者支援(p7)、障がい者支援(p19)に含まれています。



Advocacy／Awareness Raising

国内活動

提言／調査・研究／

国際理解教育／広報・渉外・収益

2022年6月25日に東京事務局およびオンライン
開催したウクライナ緊急支援報告会

AARが取り組む課題への理解を促し、多くの皆さまに活動にご協力いただくため、国内では調査・研究やアドボカシー(提言・啓発)、広報・渉外活動、収益事業などを通じた国際理解推進に取り組んでいます。

Pick up

- 小学校から大学院までの児童・学生を対象に講演・ワークショップを53回実施しました
- 活動報告会やシンポジウム、チャリティコンサートなどの主催イベントを12回実施しました
- 新聞やテレビ、ラジオ、ネットニュースなど77の記事・番組でAARの活動が紹介されました
- 108の新規の企業・団体にご支援をいただきました

提言／調査・研究

支援の専門性や事業の質を高めることを目的に、「難民支援」「障がい者支援」「地雷対策」「キラーロボット反対キャンペーン」「感染症対策」の分野で、調査や研究を行っています。各分野で支援に携わる関係団体との定期的な会合に参加して情報収集やネットワークの構築に取り組んでいます。2022年度はカンボジアで開催された「第5回アジア太平洋CBID(地域に根ざしたインクルーシブな開発)会議」や、地雷対策、キラーロボット反対キャンペーンに関する国際会議に職員が参加し、知見の発信や共有をしました。



2023年3月にカンボジアで開催された第5回アジア太平洋CBID会議でAARのラオス事業の事例を発表

国際理解教育

「難民支援」「地雷・不発弾対策」「障がい者支援」などをテーマに、講演やワークショップを計53回実施。小学校から大学院まで幅広い年齢層を対象に、国際情勢やAARの活動、国際協力におけるNGOの役割などについて理解を深めてもらいました。「難民の人々の実情について具体的に知ることができた。自分たちに何ができるか考えていきたい」「(高校)3年生は今、就職について考え始めています。その時に、どこで働くかではなく、誰のためにどう働くかを大事にしたいと思いました」といった感想が寄せられています。



佐賀農業高校でウクライナ難民支援について話す佐賀事務所の大室和也

広報・渉外・収益

緊急支援時の広報強化、SNS・動画の活用、WEB広告の本格的運用開始などの取り組みを通じて、ご寄付やマンスリーサポーターの増加を実現しました。また、108の新規企業・団体がAARへの支援を開始してくださり、さまざまな協働プロジェクトを実施しました。収益事業では、新商品『タバサム(スワヒリ語で笑顔)』の販売が好調で、チャリティグッズの売り上げが前年度比の2.5倍となりました。



新商品フレーバードティー『タバサム』とチャリティチョコレート



株式会社リベルテでは、同社が運営するフラワーショップで、AARのウクライナ支援への寄付つき花束を販売してくださいました

ご支援をお寄せくださった皆さまからのメッセージ

「亡くなった命は救うことができませんが、助かった命に対して支援していただきたい。私の代わりによりしくお願いいたします」
(トルコ地震緊急支援にご寄付)

「私たちが現地で直接支援することは難しいですが、声を上げて思いを発信し、関心を持つ人を増やすことはできます。支援の輪を広げることになればうれしいです」
(街頭募金やチャリティイベントを主催した高校生)



「確実にアフガニスタンの地震被災者の元に届ける貴団体の活動に期待しています」
(アフガニスタン地震緊急支援)

「少年のころ集めていた切手です。難民の子どもたちのために役立てて下さい」「家に眠っていたものがお役に立てるのなら」
(書き損じハガキキャンペーン)



「まず現状を知ることが支援につながると思いました」
(フジロックフェスティバル'22でAARのブースを訪問して下さった方)

「このチョコを渡した方に、こんな支援の方法もあることを知ってほしいと思いました」「美味しいチョコレートを買うことが、誰かの助けになるならうれしいです」
(チャリティチョコレートご購入)



実施体制

2022年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症防止策を実施し、事業地での状況に応じた対応をしつつ、世界16カ国で33の事業を実施しました。2021年度に開始した、受益者や地域住民などへの性的搾取・虐待およびハラスメントからの保護(PSEAH^{※1})、子どものセーフガーディング(CS^{※2})に関する方針や制度の整備を行い、より質の高い事業実施に向けた取り組みを推進。また、東京事務局のバリアフリー化とフリーアドレス化を進めました。

※1 PSEAH:Protection from Sexual Exploitation, Abuse and Harassment
※2 CS:Child Safeguarding



東京事務局ではフリーアドレスを導入

職員・ボランティア

2023年3月31日

日本国内65人(東京事務局61人／佐賀事務所3人／東京事務局付海外駐在員1人)
海外事務所職員154人(駐在員21人、現地職員133人)
ボランティア活動人数1,523人(東京事務所のべ1,481人／東日本大震災被災者支援事業のべ42人)

役員

2023年6月26日現在(五十音順)

会長／理事	長 有紀枝(立教大学教授)	
副会長／理事	加藤 タキ(株式会社タキ・オフィス代表取締役／コーディネーター)	
理事長	堀江 良彰(社会福祉法人さぼうと21事務局長／ジャパン・プラットフォーム理事)	
副理事長	伊勢崎 賢治(東京外国語大学名誉教授)	
専務理事	古川 千晶(AAR事務局長)	
常任理事	忍足 謙朗(元 国際連合世界食糧計画アジア地域局局长) 高橋 敬子(社会福祉法人さぼうと21理事長) 森 スワン(元 難民救援奨学生※・ベトナム出身)	
理事	岡山 典靖(障がい者就労支援施設職員／元 AAR アジア統括) 加藤 勉(株式会社イングラム代表取締役) 河野 眞(国際医療福祉大学教授) 郷農 彬子(株式会社バイリンガルグループ取締役社長) 杉田 洋一(AAR職員) 谷川 真理(マラソンランナー／流通経済大学客員教授)	田畑 美智子(前 世界盲人連合アジア太平洋地域協議会会長) 名取 郁子(京都先端科学大学講師／元 AAR支援事業部長) 沼田 美穂(弁護士／沼田法律事務所所長) 萩原 ソパナ(元 難民救援奨学生※・カンボジア出身) 三好 秀和(弁理士／三好内外国特許事務所会長) 鷲田 マリ(西日本担当理事)
※AARが1982年に開始した在日難民学生に対する奨学金制度。以降、1992年の姉妹団体社会福祉法人さぼうと21設立まで、のべ約920人を1人平均6年間支援しました。		
監事	菅沼 真理子(元AARザンビア駐在代表) 山口 明彦(公認会計士)	

以上 役員(理事20人 監事2人)

さぼうと21



社会福祉法人さぼうと21はAAR Japan[難民を助ける会]の姉妹団体です。AARが国内で行ってきた事業を引き継ぎ、1992年に社会福祉法人として設立されました。日本に定住するインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系定住者及びその子弟などを対象に、相談事業、自立支援事業(就学支援・学習支援)などの活動を行っています。



ボランティアによる学習支援の様子。日本語をはじめ、児童・学生への学習支援、受験勉強、パソコン指導などを行っています

ご支援いただいた企業・団体・個人の皆さま

2022年度に30万円以上のご協力（寄付金、助成金、物品のご寄贈）をくださった皆さま、法人サポーターの皆さまを掲載しております。（敬称略、五十音順）



特定非営利活動法人アースエイドソサエティ／医療法人愛和会／一般社団法人あおい福祉 AI 研究所／青山学院大学／青山学院横浜英和小学校／秋田清酒株式会社／朝日生命保険相互会社／新井土木株式会社／イーグルスグループ／株式会社 ECC ／有限会社石川産業／IMS グループ／一般財団法人 IMS 国際医療支援機構／医薬化粧品産業労働組合連合会／岩見沢友の会／株式会社イングラム／インド料理教室キッチンスタジオペイズリー／株式会社ウェイブ／大崎八幡宮／株式会社大島リアルティ／株式会社大塚商会／医療法人おかがわ／特定非営利活動法人おはなしころりん／ Car Life Answer ／花王株式会社／花王ハートポケット倶楽部／公益財団法人風に立つライオン基金／加藤建設株式会社／キーン・ジャパン合同会社／公益財団法人公益推進協会／ NPO 越谷市タップダンスクラブ／作新学院／株式会社ザッパラス／株式会社ザファーム／三和パッキング工業株式会社／一般社団法人シェア基金／社会福祉法人シャローム／上海ボランティアグループ互人多（friend）・蘇州たんぽぽ／障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会／新宿眼科画廊／株式会社スマッシュ／公益財団法人住友財団／生活協同組合パルシステム東京／積水ハウス株式会社／全国友の会／全国労働金庫労働組合連合会／洗足学園中学高等学校／公益財団法人全日本仏教会／創価学会／株式会社談広告／宗教法人智恩寺／茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会役員有志／株式会社 dr365 ／株式会社 TK ／テンワス株式会社／株式会社東海クリエイト／東京海上ホールディングス株式会社／東京第一友の会／特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会／公益社団法人日本フィランソロピー協会／公益財団法人野村生涯教育センター／パーソルホールディングス株式会社／株式会社バハールエデュケーショントルコ文化センター／ Far Yeast Brewing 株式会社／富士貿易株式会社／公益財団法人船井幸雄記念館／株式会社フレクシェ／株式会社星の舞／公益財団法人毎日新聞東京社会事業団／公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団／公益財団法人毎日新聞西部社会事業団／前原製粉株式会社／株式会社モリノ／株式会社モンベル／一般社団法人ゆうちょ財団／ UBS グループ／横浜東ロータリークラブ／株式会社リカレント／リコー社会貢献クラブ・FreeWill／学校法人立教学院／立教女学院中学校／立教新座中学校・高等学校／立正佼成会大田教会／立命館宇治中学校・高等学校／株式会社リベルテ／RED LEMON ／株式会社六花亭／有限会社ワンダフル・ワールド

個人支援者の皆さま（掲載のご承諾を頂戴した方のみのご紹介とさせていただきます。）

石脇 秀夫／井上 幸子／大山 綱明／大野 金一／岡本 浩一郎／加藤 昌子／金澤 保之／蒲生 正若／國分 典子／小山 甚一／島田 洋介／鈴木 琉美／関口 雅人／田宮 良子／坪井 一穂／長嶋 さと／根岸 芳乃／野崎 喜八郎／野村 竜一／橋口 三保子／畑 恵／ヒールシャー・魁／弘中 余糸子／金野 隆穂／福田 健太郎／堀 幸生／朗生／もうりたろう／守屋 祐生子／湯田 和子／吉居 あやを／和田 成史／渡辺 順子／渡会 三千代

そのほか、主に公的助成金として以下の法人・組織よりご支援いただきました

外務省日本 NGO 連携無償資金協力／国際連合食糧農業機関（FAO）／国際連合難民高等弁務官事務所（UNHCR）／国立研究開発法人国立国際医療研究センター／佐賀県／ The Livelihoods and Food Security Fund ／特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム／職業安定所／ドイツ国際協力公社／米国國務省人口難民移住局（BPRM）

ご支援いただいた皆さまからのメッセージ



「細やかな支援活動に共感」
酒井 めぐみさん
中外製薬株式会社
総務部社会貢献グループ グループマネジャー

東日本大震災被災支援の社内イベントをきっかけにお付き合いが始まりました。AARの当事者の方に寄り添い、細やかな支援活動を現地で直接実施されている点に共感し支援を決定しました。現在は、当社の従業員募金の支援先選びにもご協力いただいております。また、現地の活動状況を随時ご報告いただいており、現地の課題や支援金はどう活かされているかを把握できる点も大変有難いです。AARとともに、困難な状況におかれている方が健やかな生活を取り戻すことを切に願っております。

2015年に支援を開始くださり、東日本大震災や九州南部大雨、トルコ地震緊急支援へのご寄付のほか、障がい者施設の商品の社内販売会開催や法人サポーターとしても応援してくださっています。



「すべての人・子どもたちに
平等な機会を」
武田 泰明さん
株式会社ザファーム 代表取締役

ザファームは千葉県香取市にある農園リゾートです。いつも園内は家族連れや子どもたちの楽しそうな声と笑顔で溢れており、見ていても幸せな気分になります。一方、国内外問わず、災害や戦争などの複雑な社会情勢の影響を受け、そうした時間を過ごすことが難しい方がいることも存じ上げています。AARの活動を支えることで、少しでも多くの方が幸せな人生を歩み、やりたいことに挑戦できる基盤を提供できればと願っています。

ウクライナ危機をきっかけに、売り上げの一部をAARにご寄付くださっています。また、トルコ地震の際は同社の施設をご利用のお客さまにも募金を呼びかけられました。



「実効性の高い支援への橋渡し」
和田 智之さん
ネットワンシステムズ株式会社
コンプライアンス室 室長

人道的援助や復興支援を通じて被災地域や難民、障がい者などを支援し、行動を起こすことは人類が生きていく上で重要な責務であり、大事な役割だと考えています。支援が必要な人や地域へ実効性の高い支援を行うことは一企業だけでは難しいこともありますが、AARに橋渡し役となっていていただくことで、有効性と安心感を兼ね備えた社会貢献活動への参加が可能になっていると実感しております。

2012年以来、ご寄付やチャリティ商品のご購入、社内販売会の実施、当会イベントへのご参加、社員ボランティアなど、長年さまざまな形で協力くださっています。同社のファミリーデーや新入社員向け研修などでも講演の機会をいただきました。



「笑顔が広がることを願って」
長沼 憲児さん
株式会社ルピシアトレーディング
代表取締役社長

AARからチャリティ商品を協働したいとお声がけいただいたことからオリジナルフレーバードティー『タバサム』の商品化が実現しました。AARの「贈った人も。もらった人も。世界の誰かにも。みんなに笑顔が広がる」という想いに共感し、『タバサム（スワヒリ語で笑顔）』ができました。チャリティ商品の『タバサム』を通して多くの方の笑顔やチャリティの輪が広がることを願っております。

2022年6月に販売を開始したフレーバードティー「タバサム」の製造でご協力いただいています。

会計報告

資金収支計算書 2022年4月1日から2023年3月31日まで

収入の部			
科 目	金額(円)	構成比(%)	
一般勘定			
会費			
正会員	768,000		
協力会員	2,510,000		
計	3,278,000	0.17%	
寄付			
寄付金	795,539,288		
計	795,539,288	40.63%	
補助金等(注1)			
国内資金			
民間資金			
(特非) ジャパン・プラットフォーム(注2)	17,995,942		
その他民間資金 7件	7,515,000		
民間資金 小計	25,510,942	1.30%	
公的資金			
外務省日本NGO連携無償資金協力	284,885,498		
(特非) ジャパン・プラットフォーム(注2)	715,142,557		
(国研) 国立国際医療研究センター	1,340,599		
佐賀県	11,200,000		
職業安定所	528,213		
公的資金 小計	1,013,096,867	51.75%	
国内資金 小計	1,038,607,809	53.05%	
海外資金			
国際連合難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	48,447,978		
米国国務省人口難民移住局 (BPRM)	5,924,751		
国際連合食糧農業機関 (FAO)	1,221,312		
ドイツ国際協力公社	1,786,591		
海外民間助成団体 1件	6,738,778		
海外資金 小計	64,119,410	3.28%	
計	1,102,727,219	56.33%	
その他収入			
前期修正益	402,301		
受取利息	221,949		
為替評価益(注3)	18,551,308		
雑収入	2,181,380		
その他の収入	4,387,214		
計	25,744,152	1.32%	
一般勘定収入合計	1,927,288,659	98.45%	
収益勘定(注4)			
チャリティグッズ・イベント等売上	26,387,638	1.35%	
受託収入・著作権等	3,960,936	0.20%	
収益勘定収入合計	30,348,574	1.55%	
当期収入合計 (A)	1,957,637,233	100.00%	
前期繰越収支差額	662,939,896		
収入合計額	2,620,577,129		

支出の部			
科 目	金額(円)	構成比(%)	
一般勘定			
支援事業			
海外プロジェクト	1,443,408,660	82.70%	
国内プロジェクト			
東日本大震災被災者支援	25,079,539	1.43%	
在日難民・避難民支援	33,154,885	1.90%	
新型コロナウイルス感染症対策支援	452,127	0.03%	
令和4年8月豪雨被災者支援	3,797,303	0.22%	
台風15号被災者支援	3,323,690	0.19%	
計	1,509,216,204	86.47%	
提言・啓発			
調査・研究(キラーロボット含む)	573,583	0.03%	
難民グローバルコンパクトの実践	442,699	0.02%	
障がい者支援	2,205,756	0.13%	
地雷廃絶キャンペーン	2,312,148	0.13%	
感染症	360,134	0.02%	
国際理解教育(佐賀事務所含む)	18,253,361	1.05%	
計	24,147,681	1.38%	
広報・ファンドレイジング			
広報・支援者対応	118,904,439	6.81%	
渉外	7,235,835	0.41%	
計	126,140,274	7.22%	
固定資産取得支出			
備品購入(海外、国内)	1,924,064	0.11%	
計	1,924,064	0.11%	
管理費			
人件費	34,215,362	1.96%	
その他管理費	27,681,168	1.59%	
計	61,896,530	3.55%	
一般勘定支出合計	1,723,324,753	98.73%	
収益勘定(注4)			
チャリティグッズ・イベント等仕入	14,403,246	0.83%	
販売管理費等	7,698,308	0.44%	
収益勘定支出合計	22,101,554	1.27%	
当期支出合計 (B)	1,745,426,307	100.00%	
次期繰越収支差額	875,150,822		
支出合計	2,620,577,129		
当期収支差額 (A-B)=(C)	212,210,926		
前期繰越収支差額 (D)	662,939,896		
次期繰越収支差額 (C+D)=(E)	875,150,822	(注5)	

附属明細書 収益勘定収支明細

収入の部		
科 目	金額(円)	構成比(%)
チャリティグッズ・イベント等売上		
コンサート・イベント	974,500	
チャリティ・グッズ	25,413,138	
受託収入(注1)	3,929,151	
計	30,316,789	99.90%
その他		
著作権等収入	31,279	
雑収入	494	
受取利息	12	
計	31,785	0.10%
収入合計 (F)	30,348,574	100.00%

注1:外務省からの委託を受け、NGO相談員として国際協力に関するご相談やご質問474件にお答えしました。

貸借対照表 2023年3月31日現在

資産の部		
科 目	金額(円)	
資産		
流動資産	現金預金	1,620,047,874
	売掛金	1,902,496
	前渡金	-
	立替金	134,770
	未収金	3,485,369
	前払金	5,617,334
	貯蔵品	3,100,725
	棚卸資産	1,846,846
	流動資産合計	1,636,135,414
有形固定資産(注1)	車両	691,218
	備品	2,866,143
	建物	25,503,219
無形固定資産	ソフトウェア	3,488,100
投資その他の資産	敷金	8,626,760
	投資有価証券	12,000
	固定資産合計	41,187,440
資産合計		1,677,322,854

注1:コンピュータ17台(含 サーバー)・車両3台・その他備品12台以外は、海外事務所保有資産／注2:当期中に受け入れた補助金等の未使用額／注3:東日本大震災関連

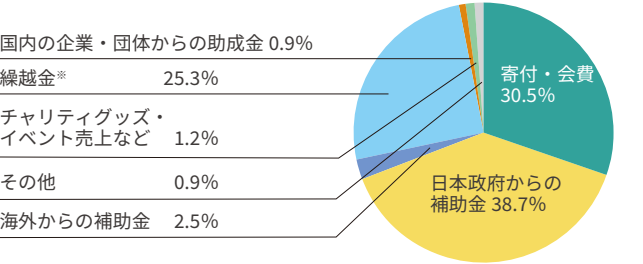
支出の部		
科 目	金額(円)	構成比(%)
チャリティグッズ・イベント等仕入・費用		
コンサート・イベント	406,352	
チャリティ・グッズ	13,294,358	
受託支出	837,406	
他勘定振替	-134,870	
計	14,403,246	65.17%
販売管理費		
人件費	4,939,706	
販売費及び一般管理費等	1,986,501	
消費税	460,301	
計	7,386,508	33.42%
法人税等支払額	311,800	1.41%
支出合計 (G)	22,101,554	100.00%
当期経常収支差額 (F-G)=H	8,247,020	

負債および正味財産の部

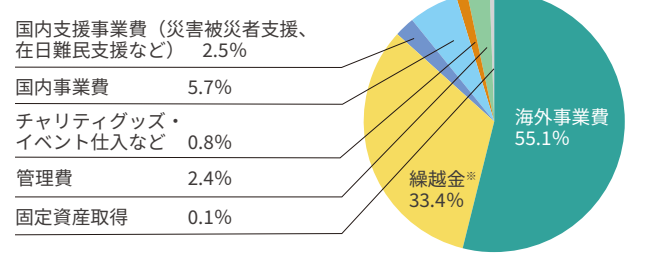
科 目	金額(円)	
負債		
流動負債	前受金(注2)	644,329,203
	未払金	106,288,951
	預り金	5,418,867
	未払法人税等	1,743,500
	流動負債合計	757,780,521
固定負債	退職給付引当金	7,170,000
	固定負債合計	7,170,000
	負債合計	764,950,521
一般正味財産	前期繰越一般正味財産	565,456,220
	一般正味財産増減額	346,916,113
	一般正味財産合計	912,372,333
指定正味財産(注3)	前期繰越指定正味財産	138,518,781
	指定正味財産増減額	-138,518,781
	指定正味財産合計	-
正味財産合計		912,372,333
負債および正味財産合計		1,677,322,854

2022年度 収入・支出内訳

➡ 収入 2,620,577,129円

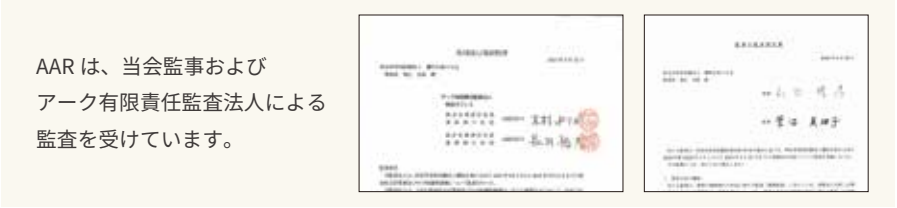


⬅ 支出 2,620,577,129円



※活用期間が年度をまたぐ寄付や一部の助成金・補助金で、既に使途の決まっている資金が含まれています。

※注記 本資金収支計算書は、特定非営利活動法人難民を助ける会が令和4年4月1日から令和5年3月31日までの期間において行ったすべての活動の資金収支の結果について資金提供者に報告・開示するために作成するものであり、特定非営利活動法人難民を助ける会の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を表示することを目的とした財務諸表に相当するものではない。 資金の範囲及び認識は、以下の通りである。(1) 資金の範囲として、流動資産は現預金・売掛金・立替金・前払金・未収金とし、流動負債は未払金・前受金・預り金とする。(2) 資金項目と資金項目以外の項目との間の取引を収支または支出として計上し、資金項目相互間の取引については、これを単なる資金項目間の取引として認識し、収入又は支出として計上しない。 注1:申請書を提出して事業費の助成を受けたもの。その他の団体からのご寄付は、個人からのご寄付と合わせて「寄付金」に計上／注2:ジャパン・プラットフォームからの補助金は、民間企業資金を財源とするものは民間資金、政府供与資金(外務省)を財源とするものは公的資金として計上／注3:取引によるものではなく外貨を円換算したことによる／注4:詳細は「収益勘定収支明細」を参照／注5:うち指定寄付分493,417,929円



AAR は、当会監事および
アーク有限責任監査法人による
監査を受けています。

より詳しい会計報告は、
ホームページ(aarjapan.gr.jp)の
財務報告書をご覧ください。